

社会の革新と進歩に貢献

日本福祉大が70周年式典開く

【半田】日本福祉大学は22日、名古屋市の名古屋観光ホテルで、創立70周年記念式典を開いた。知多半島

の自治体関係者や医療、教育団体などの代表者ら約400人が出席した。同大学は1953年に名

古屋市で中部社会事業短期大学として開学。その後、愛知県美浜町に移転し、半田市や東海市、名古屋市にキャンパスを開設。2023年に70周年を迎えた。

あいさつで丸山理事長

は「70周年の宣言として『Well-being for All』を掲げた。福祉課題に真正面から向き合い、社会の革新と進歩に貢献してきた。今後は産学官民連携で、さまざまな事業を展開していく」と述べた。



あいさつする丸山理事長

来賓の大村秀章愛知県知事は「持続可能な福祉社会の実現や国際連携の在り方など、社会問題を解決する取り組みと時代のニーズに応えた教育を実践しており心強く思う」とたたえた。

原田正樹学長は「実直に学生と向き合い、山積する社会課題に目をそらさず研究を重ねることで、次の時代をつくる役割を果たしたい」と述べた。

同日は、「Well-being for Allの実現に向けて」をテーマに記念シンポジウムも開催。全国社会福祉協議会の村木厚子会長、日本経済団体連合会の榎原定征名誉会長、国立長寿医療研究センターの荒井秀典理事長が登壇した。